

議員提出議案第 5 号

若者のオーバードーズ（薬物の過剰摂取）防止対策の強化を求める意見書

このことについて、石垣市議会会議規則第 14 条第 1 項の規定により提出いたします。

令和 6 年 3 月 18 日

提出者 平良 秀之

賛成者 石垣 達也

石垣市議会

議長 我喜屋 隆次 殿

理 由

市販薬は違法薬物とは違い所持することで罪にはならないことから濫用が発見されにくいという現実があると同時にオーバードーズによる健康被害は違法薬物よりも深刻になる場合もある。よって政府において、このような薬物依存による健康被害から若者を守るための取り組みを求める。

若者のオーバードーズ（薬物の過剰摂取）防止対策の強化を求める意見書

近年、処方箋がなくても薬局やドラッグストアで購入できる市販薬の濫用・依存や急性中毒が重大な社会問題となりつつある。実際、市販薬の過量服薬（オーバードーズ）による救急搬送が2018年から2020年にかけて2.3倍に増加したという報告や精神科医療施設を受診する患者において市販薬を主たる薬物とする薬物依存患者が2012年から2020年にかけて約6倍に増加したといった報告がある。

国立精神・神経医療研究センターの2020年調査によると全国の精神科医療施設で薬物依存症の治療を受けた10代の患者の主な薬物において市販薬が全体の56.4%を占めているとのことである。また、過去1年以内に市販薬の濫用経験がある高校生の割合は「60人に1人」と深刻な状況にあることも明らかになった。

不安や葛藤、憂鬱な気分を和らげたいなど現実逃避や精神的苦痛の緩和のために若者がオーバードーズに陥るケースが多く、実際、市販薬を過剰に摂取することで疲労感や不快感が一時的に解消される場合があり同じ効果を期待してより過剰な摂取を繰り返すことで肝機能障害、重篤な意識障害や呼吸不全などを引き起こしたり心肺停止で死亡する事例も発生している。

市販薬は違法薬物とは違い所持することで罪にはならないことから濫用が発見されにくいという現実があると同時にオーバードーズによる健康被害は違法薬物よりも深刻になる場合もある。よって政府において、このような薬物依存による健康被害から若者を守るために以下の取り組みを求める。

記

- 一、 購入者が子ども（高校生・中学生等）である場合は氏名や年齢、使用状況等を確認することになっているが、その際、副作用などの説明を必須とすること。
- 一、 若者への薬剤の販売において、その含有成分に応じて販売する容量を適切に制限すると同時に対面かオンライン通話での販売を義務づけ必要に応じて適切な相談窓口等を紹介できる体制を整えること。
- 一、 濫用の恐れがある薬の指定を的確に進めると同時に繰り返しの購入による過剰摂取を防止するために販売記録等が確認できる環境の整備を検討すること。
- 一、 若者のオーバードーズには社会的孤立や生きづらさが背景にあるため、オーバードーズを孤独・孤立の問題として位置づけ若者の居場所づくり等の施策を推進すること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により、意見書を提出する。

令和 6 年 3 月 18 日

石 垣 市 議 会

宛先 厚生労働大臣、孤独・孤立対策担当大臣